

今年一月、「NPO法案をつくった国会議員にはNPOを育てる責任がある」

元売春婦の社会復帰教育、エイズの予防教育、貧困対策の小規模融資事業、地域

NPO 最前線

という熊代昭彦代議士を団長に、森暢子前参院議員、アジア医師連絡協議会(AMDA)から私と鎌田裕十朗医師の四人でフィリピンを視察した。

フィリピンは、知る人ぞ知る「NPO・NGO(非営利・非政府組織)先進国」である。フィリピン最大のNGO「フィリピン農村再建運動」の創始者であるフーアン・フラビエル氏は保健大臣を務め、現在は上院議員。彼からNPOと政府との盛んな人事交流、NPOの組織運営、現場のプロジェクト運営、そして政府とのすみ分けと協力関係について説明を受けた。

NPOによるプロジェクトは多種多様だった。若年



菅波 茂

保健推進教育などである。

AMD Aはフィリピンのタラック州の国際協力事業団(JICA)の母子保健プロジェクトに、二人の若手医師を派遣している。その活動は母子手帳、教育ピ

先進フィリピンに学ぶ

た住民参加型の薬生協が特徴だ。

母子手帳には子供の発育

状態が記録され、母親学級の健康教育とセットになっている。また薬生協は地域住民に流通経費と利益を除いた価格で薬を提供する。現在、NPOの薬生協には二百万人が参加している。

この視察から「AMD A国際ボランティア研修センター構想」が生まれた。NPO法案の成立と文部省のボランティアカリキュラム化に備え、主として教職員と学生を受け入れる。

構想では、ボランティア体験を青年海外協力隊、JICA、現地の活動現場で行う。AMD Aと現地のNPOが、NPOの組織運営とプロジェクト運営に関する講座を組む。発足はことし八月、最初の場所はもちろんフィリピンである。

(すがなみ・しげる) AMD A(アジア医師連絡協議会)代表。医療法人アスカ力理事長。